

食品ロス削減評価

ハロース食料局長賞

農水省表彰

食品スーパー・ハロース(本部・岡山県早島町)は、2018年度の「食品産業もったいない大賞」(公益財団法人食品等流通合理化促進機構主催)で最優秀賞に次ぐ農林水産省食料産業局長賞に選ばれた。食品ロスを減らす取り組みが評価された。

同社は2015年から廃棄せざるを得ない

食品を福祉施設やボランティア団体に提供する活動「フードバンク」と連携。支援を受ける団体が各店舗で食品を直接受け取る仕組みをつくった。当初、月に100キ程度だった提供量は現在、全80店舗で計約5ト。近隣のスーパーやドラッグストアにも協力を呼び掛けることで食品の種類や量が偏るといった課題

の解消にもつなげているという。

同社は「食品ロスはまだまだ多い。廃棄コスト削減にもつながるメリットをPRし、活動を広めたい」としている。

同賞は地球温暖化対策や食品ロスの削減を狙いに13年度創設。今回は全国から32件の応募があり、先進性や継続性などから入賞10件を選んだ。3件が受賞した同局長賞はハロースのほか、食品残さを堆肥化して地域の農家

に提供し、野菜を食材として循環利用している飲食店経営・平井料理システム(高松市)も選ばれた。

(岸本渉)